

(1) 大阪市立屠場を西北より展望せる状況、正面に見えるは事務所である。

大阪市立屠場並家畜市場建築工事

設計・大阪市経理部營繕課
 施工・株式会社大林組

津守屠場及家畜市場に就て

現在木津川及今宮兩屠場は建設以來約30年を閲し、設備既に頽廢に駄したる爲め是が改築をなすと共に家畜市場をも創設なすべく計畫、豫算1,390,000圓を計上し、昭和9年3月市會の議決を経たるものとす。

爾來改築創設に着手し、とりあへず昭和11年5月1日元阪南常設家畜市場を買収、市場業務を開始し、續いて屠場及市場の建築に着手せり。乃ち同年8月起工昭和13年3月竣工の豫定なり。

昭和12年中の在來舊家畜市場入場頭數38,637頭、賣買頭數37,024頭、主として肉牛なるが瀬戸内海沿岸地方より入場取引の後直ちに

隣接屠場に於て屠殺され本市民の食料に供せらるゝものなり。

次に在來舊屠場に於る屠殺數は昭和12年中牛33,367頭、馬1,562頭、豚26,583頭、犢2,823頭 計64,335頭に上る。是等の入場又は屠殺數は新屠場及新市場の移轉により、利用者に於て經費の節減を可能とする爲、約3割の増加を見込み得るを以て、新建築は如上の作業能力に遺憾なからしめんとす。

建築費内譯次の如し

區分	用地	建築費	合計
屠場	234,467圓	649,400圓	883,867圓
市場	110,583圓	182,967圓	293,550圓



(2) 大阪市立屠場肉搬出プラットの展望、右に見えてゐる2階建は牛屠室と内臓取扱室、左に見える2階建は屠夫控所である。

大阪市立屠場改築概要

敷地 大阪市西成区津守町
 敷地面積 17,554平方米78(5,300坪)
 建築面積 5,095平方米875(1,550坪)
 延面積 7,130平方米600(2,150坪)
 建物概要

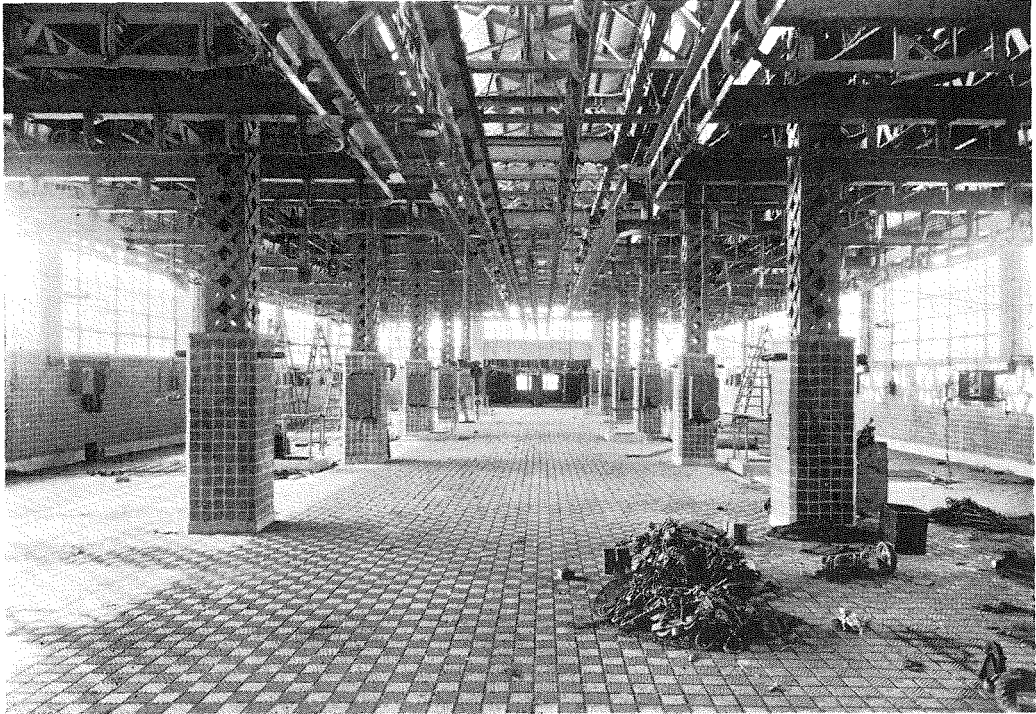
用途上の要求として一日5時間作業を原則とする屠殺能力(牛350頭、馬75頭、羊豚犢500頭)の機能を以て、本市食料獸肉配給の中心機關たらしめ、それより生ずる汚物の焼却は勿論、汚水の處方並に廢棄肉の處分をなす。

又將來冷蔵庫建設により屠肉の冷蔵を企て、以て屠肉の貯藏と配給の調節を圓滑ならしめんとする計畫なり。

建物に就て牛馬屠殺用として作業「ルート」順に述べれば

1. 未検査牛馬繫溜所 鐵筋コンクリート造平建
 収用頭數約30

2. 生體検査室(秤量並に検査) 同右、1廐秤量器及保定器を設備す。
 3. 牛専用ランベ(廻轉互路) 鐵筋コンクリート造にして之より牛は2階に上る。
 4. 牛専用検査済繫溜所 鐵筋コンクリート2階建とし、収用頭數約35、1階は倉庫に使用す。
 5. 牛屠室 鐵骨鐵筋コンクリート造2
 6. 牛内臓取扱室 } 階建天窗付とす、2階屠室は
 7. 牛皮革取扱室 } 18箇の並列る解體盤上に於て夫々屠殺、擴肢解體せられ、床、腰壁共硬質特殊タイル貼とす、解體によつて生ずる内臓、皮革、血液は夫々専用の「シュート」又は「パイプ」によりて1階に送られる(6)及(7)は1階に取設け「シュート」によつて送られたる内臓及頭を處理する臺並に内臓汚物摘出所を設くるものとす。血液は一旦「タンク」に受け逐次タンク車に受けて搬出す。
- 尙2階の解體肉は凡て運搬軌條によりて背挽所に集るものなるが18箇の電動ホイスト



(8) 牛屠室である。此處では1日約350頭の牛を屠殺する能力がある。

並にドロツバー夫々捲揚荷重500疋、5馬力のもの18箇並に電動肉挽鋸4個を設備す。

8. 牛肉懸吊所 (7)より「インクライン・コンベヤー」によつて下降せる肉を懸吊す鉄筋コンクリート造木造組屋根スレート葺平屋建なり。

「インクライン・コンベヤー」は毎分11頭以上、毎分速度20米、5馬力の能力とす。

9. 牛肉搬出プラツトホーム 鉄筋造平屋建

10. 馬屠室及内臓処理室 鉄筋コンクリート造平屋建にして馬屠殺専用とす、解體臺を二ヶ所取設く。

羊豚攪屠殺用として

1. 羊豚攪繋溜所 鉄筋コンクリート造木造屋根平屋建にし仕切柵によつて20頭乃至30頭

宛分離繋溜をなし生體検査に便ならしむ
收容頭數約150頭

2. 羊豚攪屠室 (1)より「ランベ」によつて入り來る屠獸を棒殺し、それより湯槽に入れて引き上げ毛搔をなし懸吊軌條に懸垂して解體す

鐵骨造、天窗付平屋建なり。

3. 同上肉懸吊所 (2)より運搬軌條によりて運ばれ此處にて外氣曝によりて體溫をとる

4. 同肉搬出「プラツトホーム」鉄筋造平屋建
其の他關係建物としては

1. 事 動 所 鉄筋コンクリート造2階にして市事務室、商人事務室、検査官控室、化學室、標本室並に宿直室を取設く。

2. 屠 突 控 所 鉄筋コンクリート造2階建

にして屠夫、運夫控室、浴室、洗濯室、便所等を取設く。

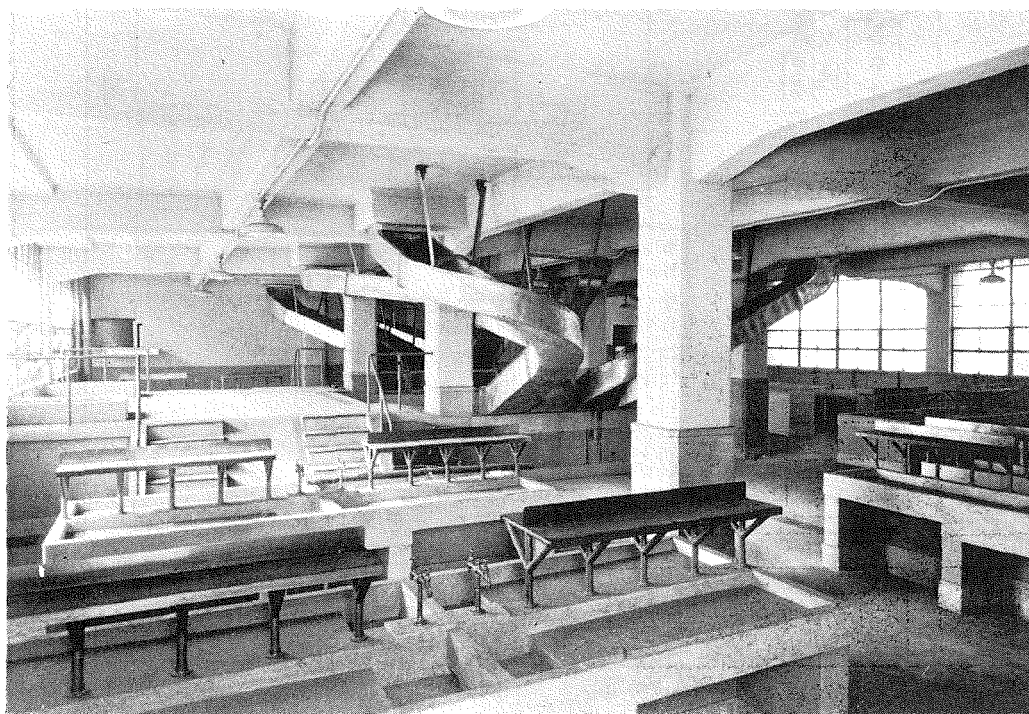
3. 病畜屠室 鐵筋コンクリート造平屋建 病畜、専用として解體床2個、内臓及皮革取扱室並に消毒室隔雜所を取設く。
4. 内臓賣場 屠獸の内臓食獎勵の目的を以て一般販賣する所なり。鐵筋コンクリート造平屋建。
5. 自動車及自轉車庫 鐵筋コンクリート造平屋建。
6. 運搬用牛馬並に牛馬車繋溜所 鐵筋コンクリート造平屋建。
7. 汚物處分所 以上の作業に基く内臓汚物の

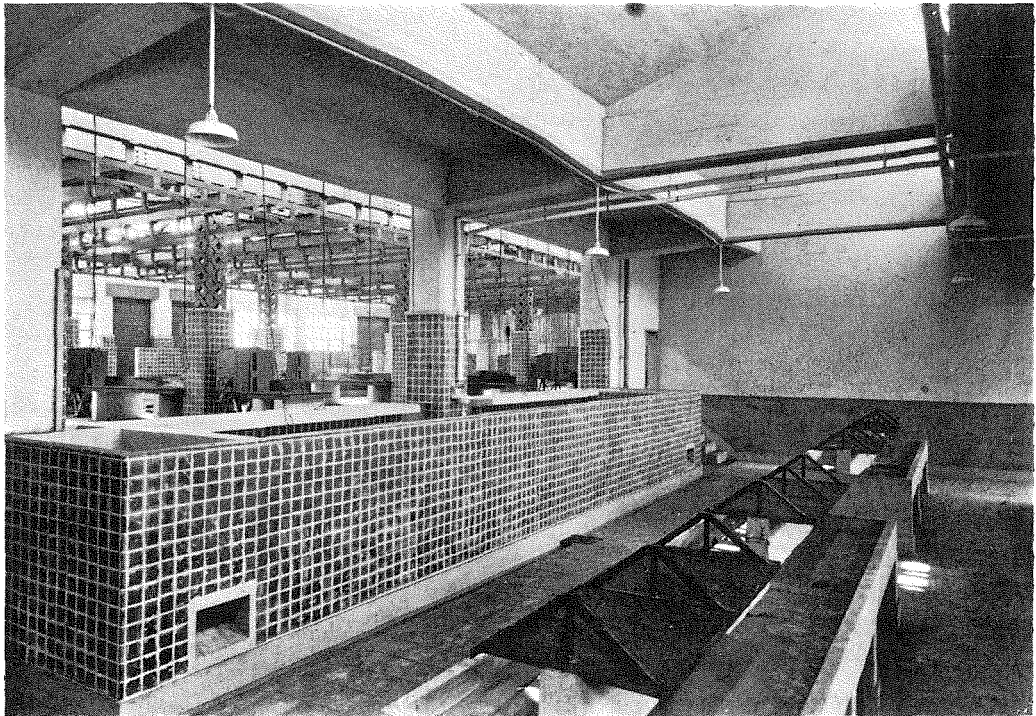
燒却並に汚水の處分をなす所にして後者は固形物除去、脱脂を経て一旦沈澱せしめ清水稀釋の後鹽素滅菌をなし固形物汚泥類は砂濾過の手段を経て稀釋し下水に放流するものとす。

尚汚水は1晝夜300立方メートルを處分する装置をなし汚物處分には遠心分離機並に火爐を備ふるものとす。鐵筋コンクリート2階建とす。

8. 門衛其他
9. 汽罐室 羊豚屠室地階に取設け主として羊豚用給湯設備をなす。
10. 電氣室 同右屠室一隅に取設け全場

(4) 屠場の牛内臓所理室である。夥しき chute は2階屠室より投下されたる内臓の通路で、室内の一段高い處は内臓汚物摘出所である。





(6) 羊豚内蔵所理室である。向ふに見えるのは羊豚積層室で、此處は1日約500頭の羊豚積を處理する設備がある。

數45頭

5. 賣場 繫溜所より挽出したる牛の一般雜賣をなす所、鐵筋の「ブラットホーム」3棟を取設く。
6. 羊豚繫溜舎 鐵筋コンクリート造吹抜平屋建とす、2棟ありて1棟は市場専用の賣場に兼用し他の棟は市場を経由せざる屠殺獸専用とす何れも收容數約250頭とす。
7. 事務所 木造平屋建にして事務室、宿直室請願巡查詰所等を取設く。
8. 商人控所 木造2階建にして市場商人控所並に厨房宿泊室を備ふ。
9. 汽罐室 鐵筋「コンクリート」造にして飼量調理用給湯設備をなすものとす。

201頁よりつゞく

腰は高さ2米20までテラゾー金屬象嵌入り、壁及天井プaster仕上、火爐の扉及枠の表面は凡てアルマイト製。
 火葬爐 三機式重油火葬爐30基、内特等大人爐6、一等大人爐3、小人爐1、二等大人爐14、小人爐6。他に豫備として特別大人爐1と二等大人爐2計3基の三機式薪炭爐を備ふ。

事業費豫算額 351,225圓。

設計 大阪市經理部營繕課。

施工 株式會社 新工務所。